

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	4271600647
法人名	有限会社 グループホーム ゆうゆうてらわき
事業所名	グループホーム ゆうゆうてらわき
所在地	〒853-0313 長崎県五島市岐宿町松山513番地1 (電話) 0959-75-7513

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月16日

【情報提供票より】(H21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.15人

(2) 建物概要

建物構造	木造陶器瓦葺平屋建 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費3,000円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	73歳	最高	104歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 山内診療所 ・ 長滝歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな自然に囲まれた静かな住宅地にある。運営者は入居者と職員のコミュニケーションの時間を多く持ちたいと願い、いかに事務作業を短縮させるかを模索し、介護記録等の電子化を検討するなど先を見据え、必要なことは率先して取り組まれるなど向上意識を高く持っている。運営者と職員の距離が近く、信頼関係も築かれており、改善に向けての取り組みが早く、サービスの質の向上につながっている。そんな家庭的な雰囲気の中、入居者は、その人らしく笑顔あふれる暮らしを送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「災害対策」については、地震災害も想定に入れ備蓄や持ち出し品の整備を行った。「栄養摂取の支援」については、管理栄養士の協力を得て、専門的アドバイスをもらえるよう展開され、「介護計画の見直し」については、介護記録を改め、日頃の気付きが介護計画に反映されやすいよう改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、各職員にて自己評価各項目の記入を試み、普段実践していることを文章で表現することが難しかったとの感想を踏まえ、今回は管理者を含む2名の職員で、他の職員の意見を収集しながらまとめ、最後に運営者と全職員で確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回開催している。会議報告書に対話形式での記載があり、意見交換の内容がとてわかりやすい。また、参加できなかった家族へも報告書を配布している。なるべく家族に参加してもらえるよう、会議開催日を考慮したり、議題を工夫している。会議メンバーからは、開催頻度を減らしてはどうかとの意見も聞かれるが、地域との交流促進のためにも重要な機会であるとの見解は変わらず、インターネット回線を使つての会議のあり方を模索するなど一歩先を見据えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議にできるだけ参加してもらえるように、家族に案内を出し、面会の際は意見を聴く機会を設けている。近況報告や介護計画書等を郵送した際は、家族から電話で返事をもらうこともある。不満や希望など、家族からあまり聞かれないのが現状である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム行事の際、保育園児に歌や踊り、太鼓を披露してもらい、近隣の方々にも参加を呼びかけ来てもらっている。フロアのワックスがけの際は、公民館を使用させてもらうなど、地域の協力も得られている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆうゆうてらわき」は、入居者が“主体となって生活する家”である。一人ひとりの生活を大事にし、皆で助け合い、生きがいをもって明るく楽しく暮らすことを目指し、作り上げた理念が、『家庭的な雰囲気の中で その人らしく笑顔あふれる ゆうゆうてらわき』である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務に入る前に唱和し、申し送りの中で入居者一人ひとりについて理念が活かされているか確認し、常に理念に立ち返りながら、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム行事の際、保育園児に歌や踊り、太鼓を披露してもらい、近隣の方々にも参加を呼びかけ来てもらっている。フロアのワックスがけの際は、公民館を使用させてもらうなど、地域の協力も得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者を含む2名の職員で他の職員の意見を聴きながらまとめ、最後に全職員で確認している。外部評価後は、改善計画シートを活用し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。会議報告書に対話形式での記載があり、意見交換の内容がとてもわかりやすい。また、参加できなかった家族へも報告書を配布している。なるべく家族に参加してもらえよう、会議開催日を考慮したり、議題を工夫している。		

グループホーム ゆうゆうてらわき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類申請などの手続きで支所担当窓口に行く機会があり、相談も気軽にできる関係である。市主催の研修会にも参加している。支所担当者も、運営推進会議で関連資料を持参されるなど、協力してくれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	変化があった場合は随時、電話で報告している。定期的にも便りを発行し、担当者からの近況報告を載せ、行事等の写真を同封し、報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にできるだけ参加してもらえるように、家族に案内を出し、面会の際は意見を聴く機会を設けている。近況報告や介護計画書等を郵送した際は、家族から電話で返事をもらうこともある。不満や希望など、家族からあまり聞かれないのが現状である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。担当制を導入し、馴染みの職員によるケアが受けられるよう配慮している。新任の際は、信頼関係が築けるようチーム力で補っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会が全職員均等にあり、受講した職員による伝達講習の場を設け、研修報告書を閲覧できるようにしている。資格取得の支援もあり、技術や知識向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ入居者と一緒に訪問し団らんするなど、交流する機会をもっている。また、グループホーム連絡協議会の研修会や交流会にも参加し、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に本人、家族の話を聴き、状況把握を十分に行い、職員全員で話し合い情報を共有している。またホームに見学に来てもらい、しばらく同じ時間を過ごすことで、少しでも不安解消につながるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側という意識を持たず、入居者と一緒に生活していると、入居者の心を感じる場面が多々あり、心が生きていることを実感している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の何気ない会話や言葉、表情、小さな動作からも見逃さないよう把握に努め、家族に確認したり情報を得るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の要望を聴き、職員全員で話し合い、意見を出し合っている。本人のできることを重視し、実状にそった介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の介護記録に、気付きを書く欄を設け、評価等で振り返りやすく改善している。毎月モニタリングを実施し、状況変化時は随時見直し、現状に即した介護計画を作成している。</p>		

グループホーム ゆうゆうてらわき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買い物同行、ドライブなど、本人や家族の要望にそって、随時柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間緊急時の対応ができるよう医療連携体制をとっている。入居時に本人、家族と話し合い、協力医療機関をかかりつけ医とする他、馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関の受療支援も行っている。かかりつけ医による月2回の訪問診療と、週1回の訪問看護が受けられる。その他についても受診介助を行っており、なるべく家族にも同席してもらい、情報共有に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム独自の「看取りに関する指針」を作成し、契約時に説明している。本人や家族の意向や意思を確認した上で同意を得、段階に応じて繰り返し話し合い、書面の書き直しも可能である。かかりつけ医と連携を取り、全員で方針を共有し、納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。終末期を家族と共に支援できるよう、家族の宿泊施設も整備している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーを損ねることがないように職員の意識向上を図り、言葉かけや対応の仕方を注意し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の重度化が進み、対応が困難になりつつある中、常に理念に立ち返り、主体性を持ってその人らしく暮らしてもらえるように努め、支援している。		

グループホーム ゆうゆうてらわき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みのものや季節に合ったものを取り入れるようにしている。行事食や、季節によっては屋外で食事したり、外食したりするなど、時には雰囲気を変えて食事が楽しめるよう心がけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あらかじめ入浴日を決めるのではなく、その日の気分で入浴できるように支援している。入浴を拒否される入居者もおられるが、清潔保持に配慮しながら、本人の意思を尊重し、声かけや誘導の仕方を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩に行き草花を摘んだり、買い物に行くなどの楽しみがある。レクリエーションや季節ごとのドライブなど気晴らしの支援も行っている。また、それぞれの得意分野で職員と一緒に作業をしたり、新聞を読むなど、思い思いの過ごし方がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や、必要に応じて買い物へ行ったり、季節ごとにドライブに出かけるなど、外出の機会を持つよう心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	いつどこに行ってしまうのか把握困難な一時期、職員体制に不安がある時のみ家族の了解のもと、居室に鍵をかけることもあったが、コミュニケーションの時間を多く取り、一緒について歩くなどケアを向上させ、現在は日中鍵をかけることなく、見守りの支援を徹底している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラーの設置をはじめ、火災自動通報装置に近隣の方々に協力いただき電話番号を登録するなど、消防設備等をいち早く整備している。また、消防署や地域の方の協力を得ながら避難、消防訓練を定期的に行っており、地震災害も意識するようになった。災害に備え水や食料品を備蓄し、入居者の病歴や薬の情報等持ち出し品を常備している。		

グループホーム ゆうゆうてらわき

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考慮して献立を作成しており、入居者の状態に合わせた食事形態を工夫し、食事ごとに摂取量をチェックし把握している。今年度から、協力医療機関より管理栄養士を紹介してもらい、専門的アドバイスをもらっており、今後も継続したいと考えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々としており、明るく開放感がある。畳の間にはこたつがあり、床の間には掛け軸や花が飾られ、和の趣のある装飾品に囲まれ、落ち着いた雰囲気を感じられる。廊下の両端に椅子が置かれ、疲れた時の休憩やしぱし外の様子を眺める光景がうかがえる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台が設置されており、居室で自由に清拭もできる。洋室と和室があり、和室にも本人の生活習慣に合わせ畳が数畳敷かれてある。調度品も本人主体に考慮されたものが配置されている。散歩の途中で摘んできた草花を飾るなど、本人の過ごしやすさを尊重している。		